全障研鳥取支部「障害児教育における新型コロナウイルス関連問題検討会」

２０２０年　６月１４日（日）

全障研大阪支部　高橋　翔吾

①学校の休校期間・再開について

●３月

２月２７日（木）夕方、市内の組合の定期大会をしていたときに、政府の休校要請の情報が入った。本当に明日で終わるのか？でも、学校から情報（連絡メール）はないし・・・。と、不安なまま解散した。２８日（金）ちょっと不安な様子の子どもたち。結局、うちの市は３月２日（月）の午前中まで授業を行うことになった。

◆最後の授業

最終日となった３月２日（月）の２時間目に、私の学級の５人（うち１人は休み）を集めて、ささやかながら６年生を送る会をした。もともとは３月に校内の支援学級全員（３０人ほど）で行う予定だったもので、６年生は一人ずつ思い出などを発表するように、パワーポイントを作り準備していた。私の学級の６年生二人は、「たんぽぽ１組の授業のこと」（１立法メートルや場合の数、溶かしてみようなど。楽しい懐かしい学習の写真がいっぱい見つかり、選ぶのがたいへんだった。）と、「犬について」（家で飼っているワンちゃんのこと。デジカメを貸し出して、散歩の様子などを撮影した。）。作成中から３年生二人も見ていて内容は知っていたけれど、改めて発表してもらうと、６年生ってしっかりしている！という感じがした。３年生に急きょ司会をお願いしたところ、二人で相談してやってくれて、それもいい機会になった。最後に、みんなで記念写真を撮った。私が支援学級担任になって４年ずっといっしょだったクラスと子どもたちだったが、私は転勤の可能性が高いこと、いっしょだった介助員さんも今年で退職なこと、私が残っていても今年はクラスや教室が変わるであろうことなども話して、クラスを閉じた。２月末から書いていた作文も間に合って、記念写真を最後に入れて、文集も作った。あと一月あれば何かもう少ししていたと思うが、学習内容も含め、やりたいことは一通りできた。

府内の市町村は、軒並み２月２８日（金）が最終だったようだ。私としては最後に１日（１時間）できて、良心的な市教委の判断だったと思った。多くの学級はバタバタと終わったことは間違いないとは思うが。

◆学年末

その後３月中は、６年生は、卒業アルバムの文集を書きに来たり、卒業式の練習をする登校日（出席扱いではない）があったりした。そして３月１８日（水）、在校生（５年生）の出席はなしで、いつもより少し短めの卒業式をして、卒業していった。通常学級の１年生で担任した子どもたち。久しぶりに親御さんとも話した。１・２・３年生で担任した教員で残っていたのは私だけ。小さいときから知っている先生がずっといることは、それだけで安

心だというようなことを言ってくれた。
　１から５年生は、予定通り３月２４日（火）に登校日（出席扱いではない）を行い、通知票をもらい学年が修了した。すでに内示があったので、私のクラスの３年生二人には内緒で転勤することを伝え、お別れした。

●４月
　４月１日、私はとなりの学校に転勤した。このころは、学校は４月から再開されるだろうということで、年度初めの準備をしていた。４月７日（火）入学式は、少し規模を小さくして（２年生のお迎えの呼びかけはしないなど）行った。
　緊急事態宣言が出され、８日（水）の始業式はできず、休校になった。これは前日（入学式をしていた日）の午後にわかった（決まった？）。臨時の校長会が毎日のように開かれ、対応が話し合われていた。朝に校内で決めたことが、夕方に変わることもよくあった。早くクラスと担任は知らせないと、家庭との連絡が取りにくいということで、１５日（水）１６日（木）１７日（金）の３日に分けて学年ごとに登校（出席扱いではない）し、簡単な始業式とクラスと担任を発表し、教科書などを配布した。特に転勤してきた私としては、家庭に連絡はしやすくなった。結局１回だけ子どもたちと会っただけで、４月は過ぎた。

●５月
　出席番号の前半と後半に分けて、何度か登校（出席扱いではない）する日「健康観察日」を設けた（１１・１２日／１８・１９日／２５・２６日／２７・２８日の４回と、６年生のみ２９日もあって５回。）。多くの子たちが登校したが、中には５月末まで本人と一度も会えていないという子も、学校で数人いた。学校に来ていない理由は、感染リスクがあるからとか、出席扱いでなければまあいいかとか様々。また、「学習相談日」として、わからない課題を学校でやれる日（２０日と２９日）も設定され、各クラスで数人ずつ来ていたようだ。

●６月
　正式に再開した。この日から出席扱いになった。
　１日（月）から　５日（金）まで、分散登校で午前または午後、４０分×３時間。
　８日（月）から１２日（金）まで、分散登校で午前または午後、４０分×３時間で簡易給食。
１５日（月）から、通常登校で、簡易給食。
２２日（月）から、通常登校で、通常給食。

<u>②休校時の学校の対応について</u>
●家庭学習
　３月中は復習程度だった。
　４月も休校になったため、授業時間をどう確保しようかという話題が職場でも出始めた。家庭での学習をもって学習したことに読み替えられるようになったので、教員は、家庭で新しい学習が進められるプリントを作って、課題にしていた。どのプリント学習が、どの単元のどの学習に相当するのか、どう評価するのか、書類を出すように市教委から通達があった。
　支援学級の子どもたちに関しては、うちの学校では、通常学級と同じような進度で学習してい

る子どもには、通常学級の課題を出すことになった。私は、支援学級で学習している教科は支援学級から課題を出すのがいいと思っていたが、転勤したてで子どもの様子も知らないので、合わせることにした。プリントを作る手間は省けたが・・・。

最近の学習は、主体的で対話的な・・・。学年からの課題を見ていると、「教科書にある〇〇さんと◇◇さんの考えを読んで、あなたの考えを書きましょう。」などというのがあった。確かに教科書にはあるけれど、家庭学習には不向きだ。親御さんからは、どうやって教えたらいいかわからないという声も聞いた。家庭で学習をするのは、ドリルっぽいものがよさそうだと思った。

●ＩＣＴ関係

３月に、市がスタディサプリを契約したようで、高学年の子どもたちにＩＤが配られた。

４月からは、引き続き５・６年生にスタディサプリが進められた。ログインして動画を見て、問題を解くというもの。けっこう難しい問題（例えば、川を船が上ったり下ったりする時間から、川の流速を求めるとか。）もあった。好きな子は、中学生の問題も解いていたが、学習が苦手な子はさっぱり。多くの子にはあまり活用されていなかったような気もする。また、３・４年生には、学びポケットというものが推進された。

学習を進めるために、動画を作りたいという声が職員からあった。こうして私たちは仕事を増やすのだと思ったが。動画検討委員会（会議）が作られ、休校期間が長引けば作ろうということに決まったが、結局学校のホームページには動画がアップできないことがわかったこと（今後のこともあり、後に解消された。）と、学校が再開される見通しが立ったことから、計画は保留になった。支援学級も何か作った方がよさそうな雰囲気ではあったが、学年も学習内容も発達段階も大きく違う子どもたちに対して、どんな動画を作るのか・・・？

ＩＣＴ環境が家に整っているかの調査をした。その返事に、「格差は進むと思うが、（ＩＣＴを使った学習を）積極的にやってほしい。」という記述があった。本当にＩＣＴの学習を進めたらいいのかは別だが、格差が進むから慎重に進めるべきだというような主張では、保護者と協同できないんだなと思った。

●預かり対応

学校内にある学童（主に低学年）に来ている子どもたち７０人ほど（全校児童数は５００人ほど）を、学童の指導員さんが来るお昼までの間、教員がシフトを組んで預かった。３月、学童に来ている子が得をしてはいけないので、勉強は教えてはいけないという通達があった。親御さんが家にいる子は親御さんが学習を見てくれるのかもしれないのだから、何をもって不公平というのかは考え物だと、職員会議で発言したのを思い出す。

預かりシフトは５月半ばまで続いた。緊急事態宣言のこともあり、４月後半からは子どもたちは４０人ほどになった。新しい職場では、先生たちがいっしょになって運動場で遊んでいて、学童の子は外で遊べていいなと地域から批判の声もあったそうだ。確かに、先生たちは状況を考えて気を使うべきだなと思った。一方、学習の時間はなかった。あれだけ学習保障とか言っておきながら、不思議なものだ。

子どもたちを見る同じような仕事だと言われたが、私たちは授業をしたり子どもたちの学級集団を作ったりするのが専門である。その専門性をほとんど発揮できない（発揮してはいけない）

時間で、私は気が進まなかった。

　支援学級の子を特別に預かったという話は、うちの市内では聞いていない。大阪市内や京都市内の教員仲間の話では、家庭の状況がわるい子や家庭からＳＯＳがあった子どもを、半日ほど預かったとも聞いた。

●教員の勤務
　私は基本的に電車で通勤している。前の職場のときは、関空へつながる南海電車に乗っていた。年明けから中国からの旅行者がいなくなり、２月ごろからは中国以外からの旅行者もいなくなり、３月からは大学生や高校生もいなくなったので、電車は少し空いてきた。しかし、緊急事態宣言が出されるまでの３月と４月のはじめは、会社へ行く人たちはけっこう乗っていた。学校だけを休みにしたって、全く意味がないなと思ったが、案の定そうだった。
　４月になり、車内や駅ではテレワークや時差出勤をお願いする放送が、毎日のようにされていた。学校は子どもが来ないので、毎日しなければいけない仕事があるわけでもないし、協力したらいいのにと思っていたところ、テレワークができることになった。市によっては、医療従事者以外は保育園や学童保育が利用できなくなったため、小さい子どもがいる教員は出勤できなくなったこともあったからだった。うちの職場では、だいたい半数程度の出勤状況になった。私も、何日かテレワークをして、全障研の「発達保障の到達と論点」や「障害者問題研究」などを読んで、簡単な報告書を書いた。職場によっては、これ幸いと職員作業などを行い、ほぼ毎日多くの職員が出勤しているところもあったと聞いている。

●家庭訪問
　私たちがウイルスを媒介してはいけないので、家庭訪問は基本的に行わなかった。健康観察日に来ない家庭は、教科書や手紙や課題を保護者（または本人もいっしょ）に取りに来てもらっていた。

<u>③休校中の児童生徒の様子について</u>
　３月まで担任していた５人の様子。
〇感染しないように、２月末から休んでいてそのまま臨時休校に。毎日行っていた放課後デイも休んでいる。本人と妹と母で家にずっといるのは大変だろうと思って、ときどき電話してみたが、意外といけていたよう。しかし、３月末には母が調子を崩して（風邪？）しまった。恐る恐る病院へ行き薬をもらったそうで、４月には復活していた。この３か月で外へ出たのは１回というくらい徹底している。本人は学校に行きたいようで、ときどき学校の服を出してくるらしい。１００％安心できるまで家でいたいと言うので、しばらく登校しそうにない。学校で感染しない保証もないので、私たちは強くは言いにくい。電話をすると、（父以外の）大人と話すのは久しぶりだと言っていた。最近、放課後デイのオンライン？をはじめたらしい。

〇母が働く飲食店は休みになり家にいれるのはよかったが、収入が減るのが困ると言っていた。本人と妹と弟で、ときどき兄弟げんかをしながらも、家や家の近くで過ごしていたようだ。毎日少しは勉強もしていると言っていた。同じく飲食店で正社員として働く父もときどき休みらしい。

〇休校になって放課後デイが午前中から開所されていて、週３日は行っている。「高橋先生の授業はおもしろかったのに、コロナで最悪や。」と言っていたらしい。うれしい限りである。（弟には、授業が楽しいの？と不思議がられていたそうだ。）学習したことを忘れているような気がして心配だと、母は言っていた。「ついたち」「ふつか」とか忘れているのに、「霜月二十日」は覚えていて、しょっちゅう言っているそうだ。「モチモチの木」に出てきたからね・・・。わかる力に合った学習は、学校が再開されたらまた思い出すでしょうと、私は思っているが。

〇家で退屈しながら、中学から出された課題を一生懸命やっているらしい。
〇ＹｏｕＴｕｂｅ三昧の毎日。ワンちゃんの散歩で外には出ていると思われる。

４月になってからも、この子たちの家には何度か電話をしてみた。子どものことや学校のことや世間話まで、親御さんはよく話してくれた。もう担任ではない私に言っても仕方ないのだが、よく知っている先生に、子どもの様子や心配なことなどを話したいような気がした。私も、新しい子どもたちとの授業がはじまるまでは、前の子どもたちの方がずっと愛着があった。東日本大震災のときでさえも異動があったという話を聞いたが、その先生たちの思いが少しわかったような気がした。

新しい子どもたちのことでは、まず課題ができないで困っているという声が多かった。学校がはじまったらいっしょにやるから大丈夫だと伝えた。登校日に来ず遊んでいたり、昼夜逆転になっていたりする子もいた。いずれも、家庭訪問や電話連絡をして、６月からは今のところだいたい来ている。
私のまわりでは、みんなそれなりに過ごしていたようだったが、大阪の教員仲間の中には、母の鬱が進んで子どもたちだけ残されたという深刻な話も聞いた。

<u>④再開後の学校の様子について</u>
・分散登校で教室の人数が半分になって、いい。体育の高跳びでは、先生がずっと付いていられてあまり待たなくてよくて、よさそうだった。２０人学級の実現を！
・分散登校では、午前と午後の間に消毒作業をしなければいけなくて、忙しい。簡易給食がはじまると、もっと忙しくなった。

・フェイスガードが配られた。教員が子どもに個々に指導するときや、子ども同士が移動して活動するとき（外国語活動の時間など）に、一応使うことになっている。ペットボトルで立てるシールドも、ラミネートを貼り合わせて作った。話し合い活動をするときに使うようだ。

・１学期の遠足や社会見学は中止。１学期の支援学級の遠足も中止。夏の林間学校（５年生）は来年に延期。修学旅行は行く予定。水泳学習が中止。（はじまるまでに内科などの健診ができない。学習指導要領では、２年の間で行えばよいようだ。）２学期の運動会は規模を縮小して行う予定。秋にある市内合同の音楽会や陸上競技大会は中止。１学期の参観日はなし。家庭訪問もなし。１学期は通知票を出さない。（学習内容が終わらず、成績処理に必要な情報が得られない可能性があ

るため。）いずれもうちの市内のこと。

・給食は、静かに食べることを指導しなければいけないのが・・・。とにかく気を使う。
・授業時数の確保がよく言われる。学級活動は控えられそうだ。
・熱中症対策も言われる。

　すっかりお家モードになっていた子どもたち。はじめこそ早く学校に行きたいと思っていたと思うが、だんだん疲れてくるのではないかと思う。ましてや、（休校期間で仕方なくとはいえ）オンラインで学習すればいいとか言われると、学校に来にくい子どもたちはますます学校に来る価値を見出しにくくなるようにも思うが。
　それから、これは私が勝手に思っていることだが、意外と授業は早く進められるのではないか。いつもの年より２か月発達している子どもたちに、同じ内容を教えるのだから。職場で言うと、びっくりされましたが。

⑤感染流行第２波に備えた教訓や課題について
　市教委は第２波に備えて、ギガスクール構想を前倒しで行いたいようだ。そもそもタブレットがすぐに何千台も手に入るのか？学校では、突然の休校に備えて、動画アプリを使った学習の仕方を教えておいてほしいと言われた。ん・・・。

◆学習のこと
　高校や大学では、オンラインでの授業が成立するのかもしれないが、小学生（特に小さい学年）には不向き。支援学級の子どもをはじめ、学習が苦手な子どもたちには、余計に不向きだと思う。オンラインでつながれるのはよいのかもしれないが、動画を見ながら学習を進めるというのは、休校期間であっても学校教育としては、私はちょっと賛成しかねる。この間、課題ができなくて不安になったとか怒って終わるとかいう話は、よく聞いた。家でする課題を出すなら、ドリルっぽいのがよさそう。子どもからするとやることがはっきりしているし、親御さんも教えやすいと思う。

◆学校の価値
　計画を立てて毎日学習を進めるよう言われていた。でも、家にいると、一日に何時間も学習するのは無理。職場では話題にならないけれど、学校で先生がいて仲間がいるからこそ、時間も内容も充実して学べるということだろう。「学力」とか「主体的で対話的な深い学び」とか言うまでもなく、学校で仲間と学ぶ（学校に仲間がいる）こと自体に価値があるということが、改めてわかったように思う。この思いを感じて、今後の学校生活や学習活動（ギガスクールでも「学力」でも「主体的で対話的な・・・」でも）を進めたいものだと思う。